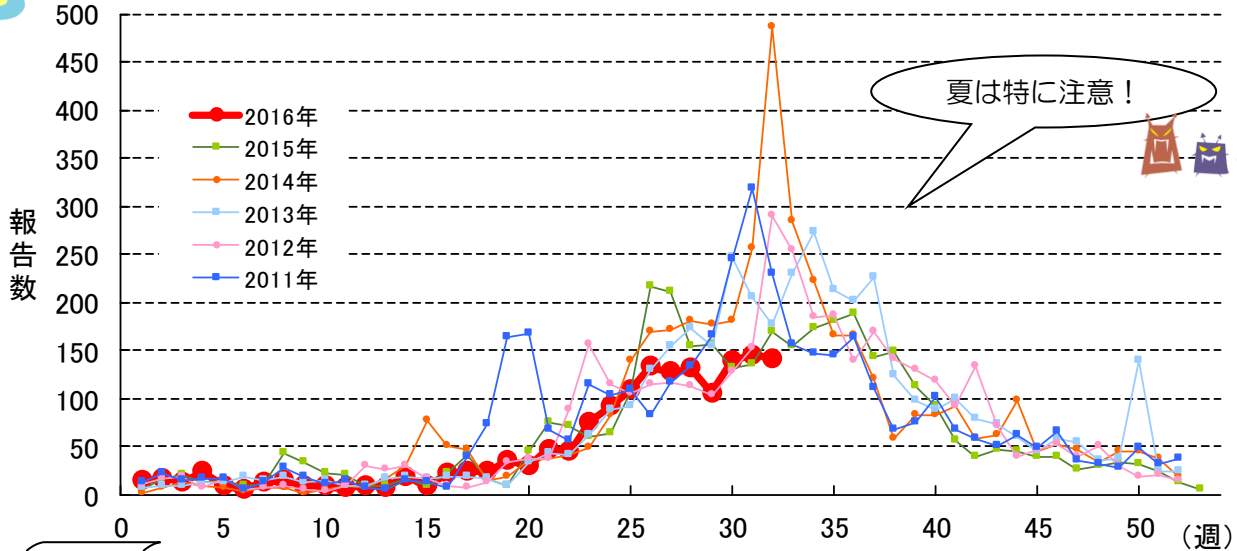




腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう

全国の腸管出血性大腸菌感染症の年別・週別発生状況(2011年~2016年第32週)



特徴

- ☞ **感染力が強い**
少量の菌で感染・発病します。
- ☞ **乳幼児・高齢者は重症になりやすい**
溶血性尿毒症症候群等によって、命に関わる症状となる場合があります。
- ☞ **潜伏期間(発病するまでの期間)が長い**
2~7日と長く、原因食品や感染源が特定されにくい。

感染経路

- ☞ **菌が付いた食べ物**
生肉、生レバー、生野菜など
生肉に触れた箸、包丁、まな板等にも菌が付いている可能性があります。
- ☞ **患者の便で汚染されたものや水**
トイレのレバーやドアノブに菌が付いていることもあります

症状

- ☞ **下痢**
軽いものから水様便、血液の混ざった下痢
- ☞ **腹痛、吐き気、発熱**

特に、乳幼児や高齢者の食事は、
十分な加熱や洗浄
鮮度管理が必要です



日常での注意事項

- ☞ **手洗いをしっかり**
調理前、食事前、トイレの後は手をよく洗いましょう。
- ☞ **食品の菌を殺す・減らす**
食肉等を調理するときは、中心部まで十分に加熱(75℃、1分以上)しましょう。
生野菜は流水できれいに洗いましょう。



早期受診

- ☞ **症状があるときは早めに受診を**
勝手に下痢止めなどをのまないで、早めに医師の診察・指示を受けましょう。